

郡山北工業高校チームに聞く！



(S) 北工チーム、(F) 顧問：深澤先生、(T) インタビュー：東北大学 戸津准教授

(T) まずは、2014年度の世界大会、おめでとうございます！

(F) チームは、先輩から受け継いで、ずっと優勝したいと思っていたので、結果が全てではないにしても、うれしいです。

(T) iCAN 2014に向けてどのような準備をしてきましたか？

(F) 10月に1次予選の書類を提出したあと、例年参加する全国高等学校ロボット競技大会があるので、iCANの準備は、12月くらいに始まります。最初の2～3ヶ月で形にして、4月にいったん完成させ、その後、改良します。だいたい半年くらいです。

(T) 北工では、どのようなチームで参加されていますか？

(F) 部活です。コンピュータ部で参加しています。部員は29名在席しています。

(S) 今年は1年生がたくさん入ってきましたが、iCANに参加したい生徒はかなりの多いです。

(T) 3年連続の出場ですが、最初のきっかけを教えてください。

(F) 震災が大きかったと思います。工業高校の学生も復興に向けて頑張っている姿勢を福島の方々に見せたかった。その折、県教委を通じて、紹介され興味を持ちました。ロボット大会は、いくらすごい技術を使っても、端から見ると、それがどう役立つかが伝わりにくい。その点、iCANは、アプリケーションに仕上げるので、学生も技術を応用するところまで考えることが出来るし、その有用性が伝わりやすい。



(T) 製作する上で、重視していたことはありますか？

(S) アイデア出しは、センサの特徴からどのようなことが実現可能かを踏まえて考えました。製作は、部活動で取り組んでいるので、それぞれの得意分野を持った部員が、分担しました。

(T) 製作の費用はどれくらいかかりますか？

(F) タブレットを抜かせば、モーターなども元々あるものを使っています。全体で7万円くらいです。オムロン社のセンサを提供下さったことは大きいです。

(T) 参加して良かった点はでしょうか？

(S) 授業では習わないことを勉強できることです。英語の勉強も、海外の技術を実際にみることも。参加する魅力はたくさんあります。ポーランドチームは、完成度が非常に高いと感じました。また、スイスチームはフレンドリーで、わかりやすい英語で話してくれたので、たくさんのお話が出来ました。

(T) 優勝して周りの反応はどうでしたか？

(S) おめでとうという言葉が沢山かけてもらいました。(今日は知事からも祝福されましたが、)とにかく緊張しました。

(T) 参加を検討されるチームにメッセージをお願いします。

(S) 参加校が増えれば、学ぶことも増えるので、是非、参加してほしい。(国内の)全国大会は、他でもありますが、世界で自分たちをアピールし、評価をいただける機会は、なかなかないです。そして、高校生にもチャンスがあるのは、とても魅力的だと思います。

(T) 後輩チームに参加を勧めたいと思いますか？

(S) 是非勧めたいです！自分たちの作りたい機械を思う存分作ってほしいです。アドバイスがあるとすれば、英語をきちんと勉強しておくことですかね(笑) 大学生のチームはプレゼンに慣れていますが、すごいと感じます。

(T) 国内で、何チームくらいが集まると良いですか？

(F) 100チームくらい集まったら楽しそうですね！

